

蒲江の岬と島々の気候

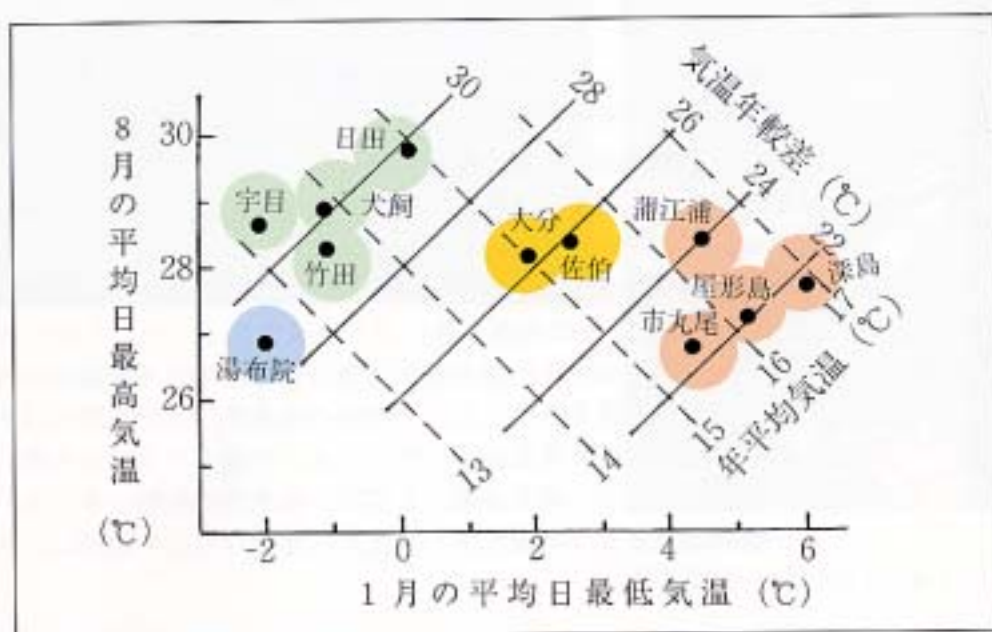


図1. 夏の暑さと冬の寒さ

蒲江町の沿岸部から屋形島や深島にかけての一带は、太平洋沿岸型の気候区に入ります。この気候型の特徴は、梅雨期から台風期にかけて雨が多く、夏の昼間は内陸部に比べて割合に涼しいこと、そして冬がとても温暖で天気がよいという点にあります。このタイプの気候区は、紀伊半島や四国の南部から宮崎県の太平洋沿岸にかけて連なっており、北上してくる黒潮暖流の影響を大きく受けています。

図1は、夏（8月）の日最高気温と冬（1月）の日最低気温を、それぞれ縦軸と横軸とにとって、大分県の各地の比較をしたものです。それによると屋形島や深島では、内陸の地域と比べて、夏の昼間は2～3℃涼しく、冬の夜が6～8℃も暖かく、したがって年間の気温の較差が8～10℃も小さいことが分かります。黒潮の水温は、夏は深島沖で22～24℃ですから、昼間内陸で気温が30℃を超えても、深島などでは海からの涼しい風の影響で27℃ぐらいにとどまっています。また、冬の豊後水道の水温を図2に示しましたが、深島沖で18℃、北上するにつれて次第に下がり、国東沖では11℃ぐらいになっています。蒲江町の沿岸部では、冬季、海水の温度が高いことによって毎日の暖かさが保たれています。

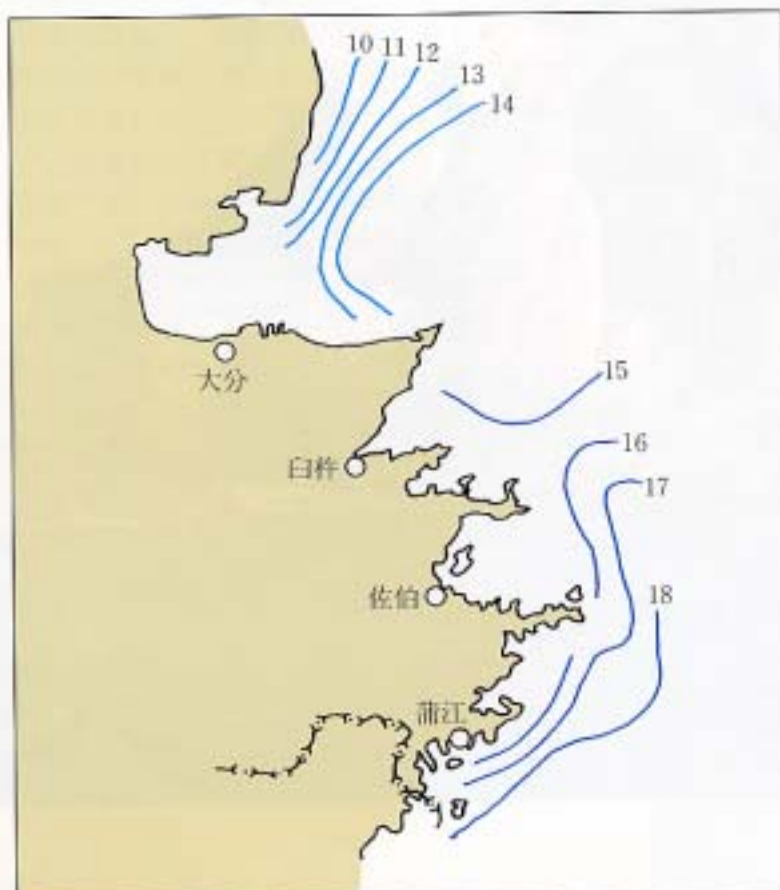


図2. 冬の海水温度の分布 (°C)

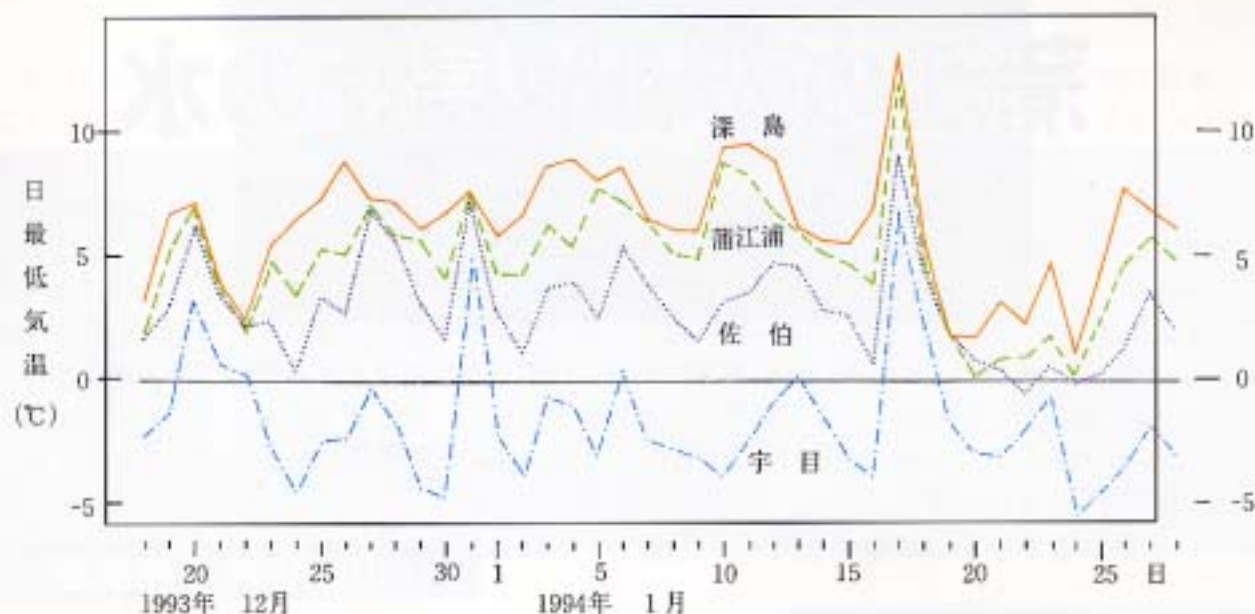


図3. 冬の日最低気温の経過

図3では、深島と蒲江浦それに佐伯市と宇目町とについて、冬の毎日の最低気温の経過を比較したものです。この図を見ると、深島がいつも一番暖かいのですが、寒波が来たときには深島も一旦は寒くなります。しかし、寒波がおさまって天気が回復して行くと、深島の気温の上り方が最も速くなっており、明らかに、島の周囲の海水によって空気が暖められていることがわかります。内陸部では、寒波がおさまって天気がよくなると、本格的な夜間の冷え込みが始まるのです。

図4は、この地域を中心とした降雨量の分布です。大分県中部では、年平均1800ミリぐらいですが、蒲江町一帯では、年間2200ミリを超える多雨域であることがわかります。年間を通してみると、梅雨期(6～7月)と台風期(9月)に月平均300ミリを超える雨量が観測され、特に台風期に最も多いという特徴があります。これは台風が来るときに、豊後水道に面した山の東斜面に湿った東風が吹きつけ、上昇気流が生じやすいからです。この地域では、夏は南よりの季節風の影響で、雲がやや多くなる傾向があります。

冬になって北西季節風になると、県北西部の山なみに雨や雪が降り、風下側では湿気が遮られ、県南部地域には乾燥した空気が入って、晴れの日が続きます。1月の降水日数は、県北西部で10～12日に達しますが、蒲江町では5日以下に減り、日照時間も1月には県北西部で130時間ぐらいですが、蒲江町では200時間近くまで増加します。このように、蒲江地域は県下でも冬の天候が最も良いのです。

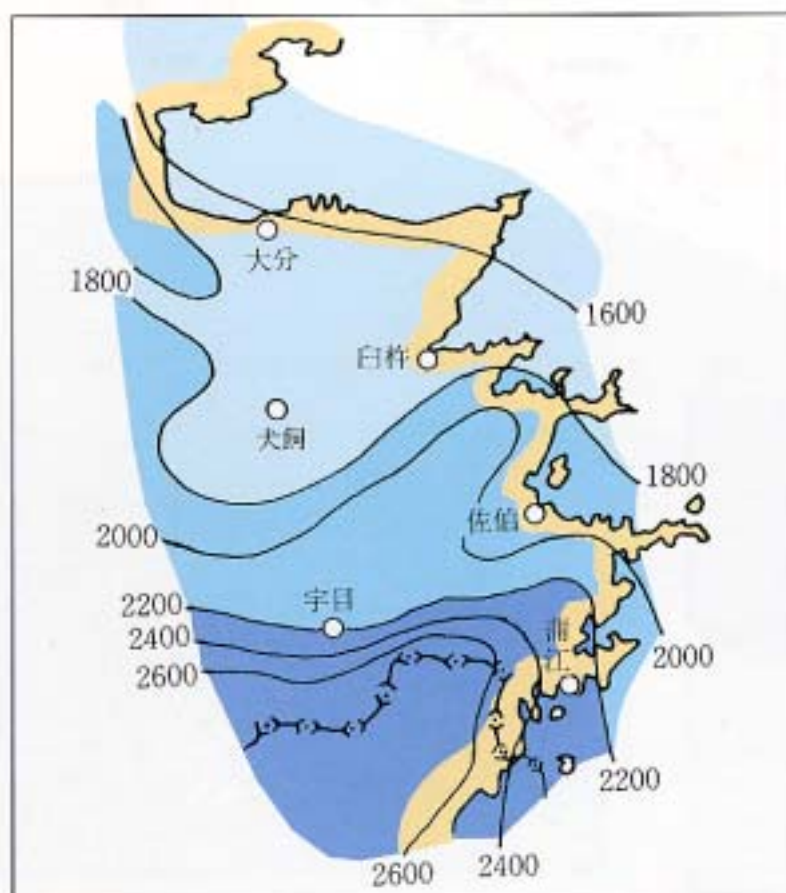


図4. 年平均降水量の分布 (ミリ)